

韓国の伝統工芸Ⅳ

— 朝鮮時代の工芸に見る男女の世界 —

会期:平成19年7月20日(金)～9月17日(月)

主催:佐賀県立名護屋城博物館

「韓国の伝統工芸」展は、名護屋城博物館で収蔵している朝鮮半島の伝統的な工芸資料を展示・紹介する展覧会です。平成15年から開催してきたこの展覧会は、韓国伝統の家具・陶磁器・服飾を中心にその「美」を皆さんに紹介してきました。4回目となる今回は視点を変え、「朝鮮時代の工芸に見る男女の世界」と題し、朝鮮時代の社会や男女の役割・生活文化などを伝統工芸を通じて紹介します。

500年余の歴史を持つ朝鮮時代(1392年～1897年)は儒教の影響が強い社会で、男女の役割が厳しく区別され、生活空間や日用品・装身具・衣服なども異なっていました。今回の展覧会では、朝鮮時代の支配階級である両班が使っていた工芸品や衣服を展示し、生活空間の再現にも取り組みました。朝鮮時代の人々の暮らしや社会の様子とともに朝鮮半島の人々が長い間伝えてきた文化・芸術の高さに触れていただければと思います。

それでは、朝鮮時代の伝統工芸の数々をごゆっくり御覧ください。



■朝鮮時代 (1392年～1897年)

日本の室町・安土桃山・江戸時代に当たる朝鮮時代は、太祖^{イ・ソンガ}李成桂によって開かれた。高麗末の軍人(右軍都統使)であった李成桂は首都を開城から漢城(現ソウル)に移し、対外的には親明政策を、対内的には儒教を政治理念として取り入れ、新しい国づくりを進めた。彼は、特に儒教の王道思想、家父長制、三綱五倫を通して家庭道徳・社会倫理を確立させた。

朝鮮時代の中央官僚機構は、文官が中心となる東班と、武官が中心となる西班に分けられていた。この東班と西班を「両班」という。身分制度はこれらの「両班」と技術官員である「中人」、農民を主とした「良人」、一番低い身分の「賤人」となっていた。

儒教の影響は非常に強く、一般庶民の世界まで浸透し、厳しい男女の区別をもたらした。特に儒教教育が徹底していた両班階級では、儒教の三綱五倫により、住宅・衣服・生活用品にもその影響が見られる。

※三綱五倫：朱子学の基本となる道徳思想。三綱とは、君為臣綱・父為子綱・夫為婦綱で、五倫とは、父子有親・君臣有義・夫婦有別・長幼有序・朋友有信を意味する。



1 文官夫妻像

朝鮮時代初期 掛幅・絹本

朝鮮時代の両班階級で先祖を祭るために描かれた夫婦の肖像画。男性の服の双鶴文胸背から上級官僚であることが分かる。紗帽を被り、朱赤色の団領服と帯を着用した姿は「官服」と呼ばれる官吏の正装である。夫妻で描かれるのは珍しい。

I 朝鮮時代の男女

三綱五倫を基本思想とする儒教によって、朝鮮時代の男女は生まれてすぐに別の環境で育てられた。

男性の場合は、子供の頃から学問と接し、それを通して個人の理想や「立身揚名(立身出世)」を追求していた。そして勉学・接客という私的・社会的な活動を通して男性としての立場を確立させた。男性は、日常生活を超えた価値観・知識・修身などを追求することが個人活動の根本だと考えられた。

それに対して女性は、家族に対して献身を通すことが美徳だと考えられた。女性は子供の頃から「男女有別(男女の別)」に基づき、10歳になると外へ出ることが制限され、女師の教えで養蚕・紡績・裁縫・祭祀の方法などを学び、学問は基本のみを教えられた。しかし一方で、このように外に対して自分を自由に表すことができなかった女性は、閨房文化を生み出すようになった。

※閨房文化：女性の居間である閨房で花咲いた女性の文化。文学・歌辞・教育書などをハングルで書いた。

II 衣服にみる男女

朝鮮半島の伝統衣服は、男子の場合は「パジ・チョゴリ」を、女子の場合は「チマ・チョゴリ」を着るのが基本である。男女の区別なく一般的に上衣のことを「チョゴリ」といい、男性用のズボンのことを「パジ」、女性用の裳(スカート)のことを「チマ」と呼ぶ。出かける際には、「パジ・チョゴリ」と「チマ・チョゴリ」の上に袍を着用し、頭には冠帽などを被ったりした。このような服飾は中国の北方騎馬民族の影響を受けたものであるが、時代によって変化し、独特の服飾文化に発達した。

※袍：外出の際に着る丈の長い上着。



2 緑色雲宝文帖裏(復元)

韓国檀国大学校寄贈

16世紀末の朝鮮国官吏の墓から出土した衣服を復元したもの。帖裏は朝鮮時代初期から上流階級の男性が官服の内側に着ていた衣服。

朝鮮半島の 伝統衣装からみる線の美

韓国では、朝鮮時代の伝統衣装のことを「韓服」という。「韓服」の美は、直線と曲線の調和であるとよく言われている。実際にチョゴリの袖には直線と曲線が使われている。足袋や靴にも直線と曲線の調和が現れている。



3 チマ・チョゴリとアブチマ

服飾名匠(柳貞順氏)の作品

黒のチマ及び白のチョゴリとアブチマ(前掛け)である。アブチマは家事をする時に使っていた。



4 子供用のパジ・チョゴリ



5 子供用のチマ・チョゴリ

ヌビの芸術

「ヌビ」とは、布地の補強・保温・装飾のために使われた韓国の伝統的な裁縫技術の一種である。表地と裏地の間に綿を入れ、手縫いをしたもの。「ヌビ匠」技能保有者の金海子氏(キム・ヘンジャ)の作品。

Ⅲ 生活空間にみる男女

儒教の影響は男女の生活空間にも区別を及ぼした。一般庶民の住宅にはそれほど厳しい境界はなかったが、兩班の上流住宅は、男性が生活をする「外棟」^{ベクタン}と女性が生活する「内棟」^{アンタン}に分かれた。

「外棟」には、主な生活の場である「舎廊房」^{セランパン}があり、一家の長である主人はここで学問に励み、詩画を楽しみ、ときには客を接待して政治・学問・芸術などを論じた。

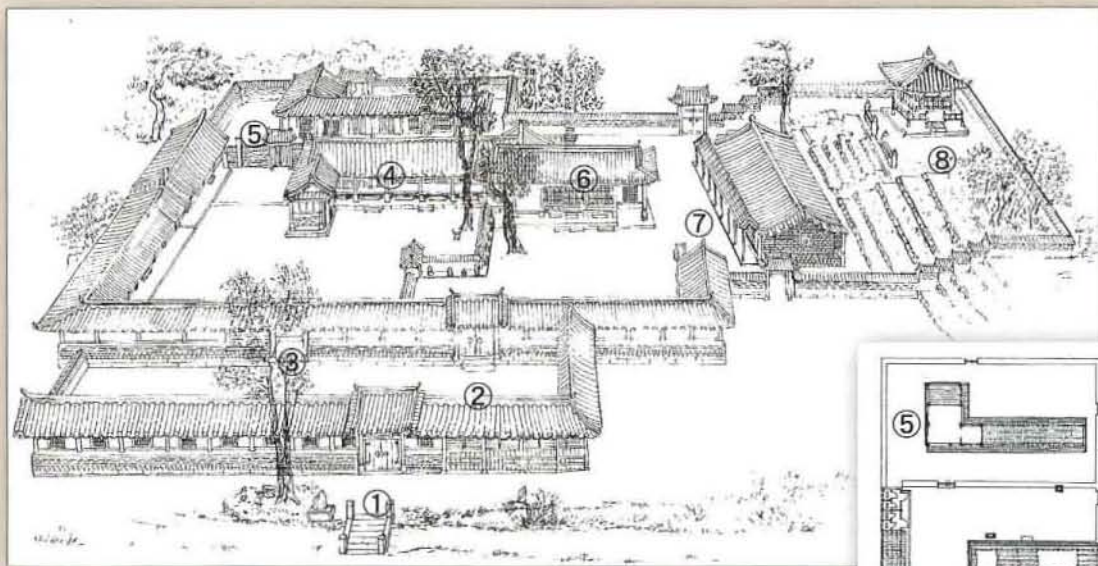
住宅の奥の方に位置していた「内棟」には「内房」があり、主婦が家事を管理する主な空間であった。ここには倉の鍵や貴重品などが保管されるなど、主婦の権威を象徴する場所として外部の男性の出入りは禁止されていた。

このように区別された男女の空間には、置かれた家具も違っていた。「舎廊房」には山水図や詩書の屏風、読書・書き物をするための家具類が置かれた。「内房」には食事などのために家族が集まる機能も持っていたため、心の和む雰囲気となるよう明るく暖かく華やかな家具が好まれた。また夫婦和合・子孫繁栄を願った花鳥図や魚楽図の屏風や、衣類や小物を納める櫥・函なども置かれた。

<昌慶宮演慶堂>

ヨンギョンドン
※演慶堂：宮殿の中に建てた民家形式の建物

図版 千柄玉著「朝鮮朝時代住宅の装飾的意匠」より



- ①長楽門（入り口）
- ②長陽門（外棟へ連結）
- ③修仁門（内棟へ連結）
- ④内棟（中に内房あり）
- ⑤パンピッカシ（倉庫・厨房）
- ⑥外棟（中に舎廊房あり）
- ⑦善香齋（書庫）
- ⑧農繡亭

▲朝鮮時代の家屋全景



▲朝鮮時代の家屋配置図



内房 朝鮮時代 韓国南山韓屋村 ^{マウル}



舎廊房 朝鮮時代 韓国南山韓屋村 ^{マウル}

IV 家具にみる男女

朝鮮時代には、善良で知識のある人を「士」と呼んでいた。士は、地域社会の価値を実現、提示する指導者としての役割を持っていた。「士」と呼ばれる階級はもちろん両班で、士に相応しい知識を得るため、彼らは常に勉学を欠かさなかった。そのような男性にとって欠かせない生活用品が文房四友（文房四宝）である。文房とは、士が日常生活を過ごす場所であり、四友とは、文房に備える筆・紙・硯・墨である。

反面女性の空間は閨房といい、針・糸・定規・裁縫のこて・はさみ・火熨斗など、家事に関係する道具が置かれていた。

(1) 男性用の家具

ソアン 書案

書案は、舎廊房には欠かせない家具で本を読んだり筆を執ったりするための机である。質素儉約を生活理念とした儒教の影響で士の部屋には華やかな飾りは使用されなかった。書案は、シンプルなデザインで広く使われ、子孫へと引き継ぐ家具の一つでもあった。



23 螺鈿牡丹唐草文書案

朝鮮時代中期

漆は、家具の表面に傷や汚れが付くのを防ぐとともに、光沢を出し、金属・螺鈿などを貼り付けるために、朝鮮半島でも古くから使用されてきた。

この資料は、全面に黒漆を塗り、天板には麻を被せ、その質感を表現するために朱漆を薄く塗っている。天板の縁には宝珠を中心とした双龍が金属縫線であらわされ、側面には螺鈿で花を、金属縫線で蔓を表現している。

ムンガッブ 文匣

舎廊房に置かれ、文房四友や重要な文書を保管したもの。サイズの小さい書案を補完する役割もした。天板の上には筆箱・硯・鑑賞用の自然石・蘭などを置いていた。同じ仕様のもとの合わせ2点1組で使われることが多い。内房でも使用された。



26 文匣 朝鮮時代

キョンサン 経床

経床は、書案と同じく本を読むための机。舎廊房には書案と経床が一緒に並べられた。もともと僧侶が経典を読むために使ったもので、巻物などが落ちないように両端を上にして反らしている。朝鮮時代は、「崇儒抑仏」政策がとられたが、仏教は日常生活では変わらず親しまれていた。



24 経床 朝鮮時代後期

脚は曲線の虎足、引き出しも曲線でデザインされている。引き出しには陰刻模様や小さい棒を付けて飾られている。

ヤクチャン 薬櫃

舎廊房に常備された家具。男性は家長として自ら家族の健康のために最低限の医学を学び、薬を常備していた。引き出しに書いてある薬名を見れば、当時良く使われた薬が分かる。



27 薬櫃
朝鮮時代後期

朝鮮木工芸の特徴

朝鮮半島は国土の70パーセント以上が森林であり、古くから木材加工技術が発達していた。木材の特性をよく把握していたため、家具の各部分には用途に合わせた木材が使われた。従って朝鮮時代の家具には一つの木材ではなく、様々な種類の木材が使われた。これらの家具は、使うほどに木材本体が持つツヤや柔らかみが表れ、持ち主の生活に馴染んでくる道具であった。

(2) 女性用の家具

鏡台

女性の代表的な生活用品である鏡台は内房には欠かせない家具の一つであった。一般的に2〜3段になっていて上面を半分折って開けると鏡があり、全面の引き出しには櫛などの化粧道具が納まるようになっている。引き出しがない鏡台は男性も使っていた。



しゅめりきょうだい
6 朱塗鏡台
朝鮮時代後期

らでんくろうるしちくようもんきょうだい
7 螺鈿黒漆竹葉文鏡台
朝鮮時代後期
殻の貝殻で華麗に飾り、擦れやすいところには金属の飾りを付けた。

パンダジ

服や身の回りの様々な小物や貴重品などを収納したもの。天板の上には布団などを載せて利用した。パンは「半」の意味で、前板の上半分が手前に開閉することから名づけられた。



17 パンダジ
朝鮮時代

黒柿製で木目が墨で絵を描いたように見える。天板と側板は蟻差で強固に作られ、内部には3つの引き出し付いている。

ハム函

函は、貴重品を保管するためのもの。錠があるのはその理由である。函は、現在も婚姻の際に新郎が新婦に「婚書」や織物などを入れて贈るのにも使われている。

※婚書：新郎の家門（一族）が新婦の家門に贈る書簡。新郎の生年月日や系譜・家門の紹介などが書かれた。



らでんくろうるしさんずいもんハム
11 螺鈿黒漆山水文函
朝鮮時代後期

殻貝を細長く切り、直接に貼って文様を表した。このような山水文は理想郷を意味するものとしてよく描かれた。



しゅめりらでんことぶきもんハム
9 朱塗螺鈿寿文函
朝鮮時代後期

チャン櫛

服・布団などを収納する箆笥。櫛は、前面に両開きの扉があり、内部がいくつかの層に分けられているのが特徴。朝鮮時代の服は平面裁断で作られたため、掛ける必要がなく折り畳むのが普通だった。従って箆笥のサイズは小さく、移動しやすいように作られた。しかし、官服のように大事な服は衣掛櫛に掛けていた。服・布団の管理は女性の役割だったので内房に揃えられていた。



たけはりにそうチャン
20 竹張二層櫛
朝鮮時代

縦に割いて板状にした竹を表面に張り込んだもの。単調さを避けるために竹の張り方を変えている。動かしやすいように側面には取っ手が付いている。



19 朱塗二層櫛
朝鮮時代後期

V 装身具にみる男女

朝鮮半島では、古墳の出土品にも装身具が多くあり、古くから使われていたことが分かる。数多くの装身具には、洗練された高い技術が窺える。朝鮮時代は、「崇儒」により、女性の装身具が制限され、高麗時代まで使われてきたネックレス・ピアス・腕輪などの使用が禁止された。しかし、頭の飾りやノリゲ・指輪などは愛用され続けた。

朝鮮時代の装身具の特徴のひとつは、その紋様にある。紋様の内容は長寿・祈福・避邪などの世俗的なもので、現世の幸せを追求する意味を持つ。

男性の装身具としては、冠帽・帯・テンギ（未婚者の髪縛り）などがあり、女性の装身具としては、指輪・簪・ノリゲ（チマ・チョゴリの胸元に飾るアクセサリー）などがあった。



28・29 朱塗笠函と黒笠

朝鮮時代

黒笠は、朝鮮時代の上流男性が外出や儀礼を行う際に被っていた代表的な冠帽。もともとは日焼けや雨をふさぐために使われたもの。長い髪の毛を絹巾と帛巾で頭の頂上まで結び上げてから被る。牛・馬の尻尾の毛や竹を編んで形を作り、黒漆を塗る。朱塗笠函は、笠を保管するためのもの。この資料は八角形になっているが、円盤状のものもある。

36 刺繍チュモニ

韓国現代
刺繍名匠(金奈美氏)の作品

伝統服にポケットがないことからチュモニを作って小物やお金などを入れ、腰紐に掛けたり、手に持ったりした。刺繍のチュモニは上流女性の間で使われたもの。



31 朝鮮使節騎馬図

江戸時代中期
宮川長春筆 掛幅・絹本

来日した通信使随員の休息を描いた風俗画。当時の黒笠が見られる。



VI 現代の韓国工芸

42 刺繍十長生文頭櫃

現代

内房家具の一つとして服・冊・文書などを保管した。横になって寝る際頭側に置かれていたので頭櫃と呼ぶ。図柄は十長生文で、1999年に「大韓民国名匠」の刺繍分野に選定された金奈美氏の作品である。

※十長生：不老長寿を象徴する10種類のもの。日・水・石・山・雲・松・不老草・亀・鶴・鹿などがある。竹や川を含む場合もある。





朝鮮時代の伝統工芸は、無形文化財の指定を受けた技術の「技能保有者」を中心に現在も継承されている。韓国では保存価値の高い伝統芸能や技能に対して文化財保護法に基づき「技能保有者」を認定している。また無形文化財を後世に伝えるため、伝授会館を建て技能・芸能の継承にも力を入れている。近年は、伝統を活かしながら現代風にアレンジした工芸品も評価を高めている。

43 ^{モリツチャン} 頭櫛

現代

朝鮮時代の伝統的な櫛。前面には、^{パル}樺や柿・^{ビヤク}銀杏などの薄い板を貼り合わせ、それを薄く切って断面を見せることで美しい模様を創り出す「寄木技法」の一種が使われている。異なる木質や木目を組み合わせ、緻密で規則的な模様が表現されている。韓国重要無形文化財「小木匠」技能保有者である 千相源 氏の作品。

【出品資料一覧】

資料名	時代	点数	法量(縦×横×高)cm	摘要
1 文官夫妻像	朝鮮時代初期	1	掛幅158.5×絹本96.5	
2 玄綠色雲宝文帖裏【復元】	韓国現代	1	柘123×丈129	韓国檀国大学校寄贈
3 チマ・チョゴリ	韓国現代	1	柘76×丈28	韓国服飾名匠(柳貞順氏)の作品
4 子供用のバジ・チョゴリ	韓国現代	1	柘46×丈43	ヌビ匠(金海子氏)の作品
5 子供用のチマ・チョゴリ	韓国現代	1	柘41×丈29	ヌビ匠(金海子氏)の作品
6 朱塗鏡台	朝鮮時代後期	1	37.4×25.9×29.9	
7 螺鈿黒漆竹葉文鏡台	朝鮮時代後期	1	27.5×19.6×15.4	
8 螺鈿櫛筒	韓国現代	1	29.1×30.0×31.6	螺鈿匠(宋芳雄)の作品
9 朱塗螺鈿寿文函	朝鮮時代後期	1	28.5×45.4×27.6	
10 螺鈿花鳥文函	朝鮮時代後期	1	44.8×77.0×31.4	
11 螺鈿黒漆山水文函	朝鮮時代後期	1	21.6×35.8×22.8	
12 紙張卍文函	朝鮮時代後期	1	39.3×73.4×38.8	
13 螺鈿果樹蝶文針函	朝鮮時代後期	1	37.4×37.1×11.1	
14 螺鈿吉祥文字文虎足盤	朝鮮時代後期	1	径31.5、高22.5	
15 八角盤虎足盤	韓国現代	1	径32.7、高23.4	羅州盤匠(金春植氏)の作品
16 トウジユ	朝鮮時代	1	33.7×47.0×43.0	
17 バンダジ	朝鮮時代	1	51.0×102.3×52.5	
18 バンダジ	朝鮮時代	1	41.0×80.1×55.0	
19 朱塗二層櫛	朝鮮時代後期	1	55.8×103.5×127.1	
20 竹張二層櫛	朝鮮時代	1	36.9×99.0×103.2	
21 刺繍花鳥詩文屏風	韓国現代	1	175.4×362.4	
22 書案	朝鮮時代	1	26.5×65.7×27.6	
23 螺鈿牡丹唐草文書案	朝鮮時代中期	1	45.0×85.0×28.5	
24 経床	朝鮮時代後期	1	32.4×65.1×37.3	
25 螺鈿十長生文文匣	朝鮮時代後期	1	25.7×73.8×32.0	
26 文匣	朝鮮時代	1	33.1×82.3×36.0	
27 葉櫛	朝鮮時代後期	1	25.5×103.0×97.1	
28 黒笠	朝鮮時代	1	径34.2、高13.5	
29 朱塗笠函	朝鮮時代	1	径39.5、高22.0	
30 ノリゲ	韓国現代	1	長29.5	
31 朝鮮使節騎馬図	江戸時代中期	1	掛幅・絹本125.0×40.0	
32 黒笠	韓国現代	3	つば径67.0(最大)	統宮カッ匠(鄭春模氏)の作品
33 烙竹矢筒	朝鮮時代	1	長97.5	
34 烙竹粧刀	韓国現代	4	長10.5~19.8	粧刀匠(烙竹粧刀、韓炳文氏)の作品
35 煙管	韓国現代	10	長21.0~71.5	煙管匠(尹泰燮氏)の作品
36 刺繍チュモニ	韓国現代	3	縦10~15.5	刺繍名匠(金奈美氏)の作品
37 銀粧刀	韓国現代	12	長8.9~18.4	粧刀匠(林且出氏)の作品
38 チャムビツ	韓国現代	5	各縦9.0×横5.5	チャムビツ匠(高行柱氏)の作品
39 朝鮮半島絵葉書	近代			
40 朝鮮紀聞	江戸時代後期	1	27.5×19.5	
41 刺繍画「鶴虎図」	韓国現代	1	66.5×38.0	刺繍匠(崔維珪氏)の作品
42 刺繍張十長生文頭櫛	韓国現代	1	36.2×62.0×50.0	刺繍名匠(金奈美氏)の作品
43 頭櫛	韓国現代	1	35.4×56.3×58.9	小木匠(千相源)の作品

- 【附記】 1. 本展覧会の開催にあたり、御協力賜りました川口輝明様に厚くお礼を申し上げます。 2. 資料名に冠している数字は展示番号である。
 3. 本展覧会の企画及びパンフレットの編集は国際交流員 安熙敬が担当した。
 4. 本展覧会の出品資料及びパンフレット掲載の資料は、すべて本館所蔵である。

佐賀県立 名護屋城博物館

Saga Prefectural Nagoya Castle Museum
 〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3
 TEL 0955-82-4906 FAX 0955-82-5664
 (E-mail) nagoyajouhakubutsuken@pref.saga.lg.jp
 ホームページ http://www.pref.saga.lg.jp/et-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/nagoya/nagoya/index.htm

- 開館時間 9:00~18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(休日の場合は翌日)及び年末
- 観覧料 無料(特別企画展開催期間中を除く)

平成19年7月発行
 編集・発行 佐賀県立名護屋城博物館
 印刷 鹿島印刷株式会社

©2007 佐賀県立名護屋城博物館



環境保護のため
 再生紙を使用し
 ています。